

令和7年度札幌市地域福祉振興助成金運営審査会 会議録

1 日時

令和7年8月6日(水) 午後2時00分～午後4時00分

2 場所

札幌市役所本庁舎 地下1階5号会議室

3 議題

(1) 委員長及び副委員長の選出について

(2) 令和7年度の助成案の審議

4 出席状況

(1) 委員7名

大内 高雄 委員長、小松 祐司 副委員長、磯貝 智美 委員、

小竹 徹 委員、渡辺 恵美子 委員、濱谷 信子 委員、岡田 直人 委員

(2) 事務局(保健福祉局)3名

斎藤地域福祉・生活支援課長、原福祉活動推進担当係長、萩原職員

(3) 傍聴者0名

5 議事の概要

(1) 活動費助成の審査について

- 事務局から活動費助成の助成案の説明を受け、審査を行った。
- 主な審議内容は以下のとおり。
 - ・ 日中世代友好会で購入予定の楽器とは具体的に何か。

⇒ 中国琴の購入を予定しているとのこと。

- ・ 北海道アナログゲーム教育研究会、NPOボラギヤングの収入内訳にある補助金・助成金とはそれぞれ何か

⇒ 北海道アナログゲーム教育研究会は(独立行政法人国立青少年教育振興機構の)子どもゆめ基金、NPOボラギヤングは日本財団の「子ども第三の居場所」を利用予定。なお、交付金額等は予算段階であるため、見込みで記載されている。

- ・ NPOボラギヤングの次年度繰越金100万円とは何か。

⇒ 申請書へは、家賃光熱費前払いのためと記載いただいている。団体側の会計処理上繰越金として計上しているものと思われる。

- ・(前質問へ追加して)家賃等の前払いで100万円というところは違和感がある、詳細について団体側へ確認してほしい。

⇒ 審査会後、団体側へ詳細を確認の上、報告したい。

※(審査会後追記)NPOボラギヤングへ繰越金の詳細について確認。当該繰越金については、団体運営費(助成金の申請対象としていないもの)の一部であり、民間の助成金が採択されない場合に備え、会費や寄付金を次年度の家賃光熱費の支払いに備えて繰り越しているものとのこと。

- ・ 他の補助金・助成金をもらう団体では、計上項目などに重複はないのか。

⇒ 重複がないよう清算時等に確認をしている。

- ・ NPOボラギヤングのサロン活動については、どのくらいの頻度で開催し、どのくらいの参加者がいるのか。

⇒ 子ども食堂兼サロン活動として、隔週で月曜火曜の朝と毎週水曜日金曜日の夜に開催されている。参加人数についてはばらつきがあると思われるが、報告を受けた5月24日のサロン活動の参加者は12名ほどとのこと。

- ・ NPOネウボラの赤ちゃん広場はどのくらいの頻度で開催し、どのくらいの利用者が参加されているか。

⇒ 月1回第2土曜日の開催。利用者については活動報告を受けた6月14日の会では午前午後で8組の親子が参加されたとのこと。

- 審査の結果、事務局の助成案のとおり助成することとなった。

(2) 単発事業助成の審査について(1団体「ボランティア イネーブルガーデン」)

- 事務局から活動費助成の助成案の説明を受け、審査を行った。
- 主な審議内容は以下のとおり。
 - ・ 昨年度同様のイベントを実施したことだが、前回はどのくらいの参加者が集まつたのか。

⇒ 昨年度は22名程度。今年度は昨年内容に加え、小豆収穫の内容もあるため、参加人数としては増えるのではと思われる。

・ 単発事業助成の対象事業は要綱上では市民向けの大規模なイベントや市民に幅広く参加を呼び掛けて実施する行事とされているが、当該イベントについて、該当するといえるのか。

⇒ 大規模なイベントについて、どのくらいの参加者を想定するイベントか、というような明確な基準を設けているわけではなく、要綱上の前年度団体予算の20%を超える事業を、その団体にとっての大規模な単発イベントであるとみなす取り扱いとしている。

今回の当該団体の申請については、委員の皆様からのアドバイス等を踏まえ、施設利用者等限られた方のみしか参加できないイベントとなることのないように、地域や関係者への広報などを行ってほしい旨助言したい。

また、要綱の記述について、当該助成金の本来の趣旨と若干かけ離れた表現となっている部分もあるかと思われるため、記載内容の見直しも含め、検討してまいりたい。

※(審査会後追記)ボランティアイネーブルガーデンへ上記審査会からの助言事項について伝え、了承。認知症対策を根底とする活動であることから、会場として予

定している施設と相談の上、施設所在地域や関係団体等への呼びかけをしていく
たいとのこと。

- ・ 資材購入費に炊飯器があるが、会場となる施設から借りることはできないのか。
⇒ 審査会後、団体側へ詳細を確認の上、報告したい。

※(審査会後追記)炊飯器については、本番前にボランティアで集まってリハーサ
ルを行う必要があること、会場施設から借りることについては衛生上の問題等もあ
ることから購入をしたいとのことであった。

- 審査の結果、事務局の助成案のとおり助成することになった。

(3)立ち上げ支援事業助成の審査について(1団体「さっぽろカインド俱楽部」)

- 事務局から活動費助成の助成案の説明を受け、審査を行った。
- 主な審議内容は以下のとおり。
 - ・経費にある楽器とはどのようなものか
⇒ 鍵盤ハーモニカやタンバリン、電子キーボード等を購入予定。
 - ・立ち上げ支援で購入した備品については次年度以降も使用するのか。
⇒ どんな参加者を見込んでいるのか。また広報等の予定は聞いているか。
 - ・対象者としては障がいのある方や高齢者をはじめとした広い市民を見込んでいる。広
報予定について詳しくは聞いていないが、立ち上げ団体ということもあり、まずは活動
者のつながりの中から広げていくのではと思われる。

- 審査の結果、事務局の助成案のとおり助成することになった。

(4)その他

- ・ 活動費助成の特例措置要件として「団体の予算額に占める助成金の割合が20%以
上」とされているが、物価上昇により予算額も上がっているため、将来的にはこうし
た点についても制度の見直しも検討してもよいと思われる。(回答不要)
- ・ この助成金は子ども食堂についても対象となるのか。

⇒ 助成要件を満たせば対象となり、実際に対象としている事例もあるが、子ども未来局で実施している「札幌市子どもの居場所づくり活動支援補助金」等もあるため、そちらを利用しているケースも多いと思われる。

・ 例年この審査会が8月、助成金の交付が9月ということもあり、助成団体も助成が受けられるかどうかわかるまで活動を控えているようなケースも想定される。年度当初に交付決定できるようにすることなどは可能か。

⇒ 事務局としてもできる限り早いスケジュールで進めたいと考えているが、予算の関係などから早くとも募集開始は年度が明けてからとなり、そこから審査等を行うスケジュールとなるため、現在よりも大幅に早くすることは難しい。